

作物の種類		しろクローバ		466		1次必須項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位										調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	草型	10個体、2反復	観察		極立型		立型		中		ほふく型		極ほふく型	開花期における地表と植物の茎葉の角度により判定	
2	草高	10個体、2反復	測定	cm (小数第1位を四捨五入)										開花期の地表からの植物体の高さを測定	
3	茎の太さ	10個体、2反復	測定	mm (小数第2位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第3節間の太さ、ノギスまたはダイヤルキヤリパーによる測定	
4	小葉長	10個体、2反復	測定	mm (小数第1位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第3葉の中央小葉の長径	
5	小葉幅	10個体、2反復	測定	mm (小数第1位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第3葉の中央小葉の短径	
6	葉斑の鮮明度	10個体、2反復	観察	無	極不鮮明	より不鮮明	不鮮明	やや不鮮明	中	やや鮮明	鮮明	より鮮明	極鮮明	葉斑の鮮明さの程度を評点	
7	開花始日	10個体、2反復	観察	年月日										50%の個体で個体当たり3個の頭花が開花に至った日	
8	花の色	10個体、2反復	観察		白	白 ～黄 白	淡紫	淡紫 ～淡 紅	淡紅	淡紅 ～紅	紅	紅 ～濃 紅	濃紅	開花始め時の花の色を評点	
9	花柄長	10個体、2反復	測定	mm (小数第1位を四捨五入)										株中央部の熟した頭花の花柄長を測定	
10	頭花数	10個体、2反復	観察		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	株当たり頭花の数 (開花期の30日後に調査)	
11	小花数	10個体、2反復	測定	個/1頭花 (小数第1位を四捨五入)										開花期後1ヶ月以内の10頭花について計数平均する	
12	1000粒重	10個体、2反復	測定	g (小数第3位を四捨五入)										計20個体 (10個体2反復) の混合精選種子を100粒4反復秤量して1000粒重に換算	

作物の種類		しろクローバ		466		1次選択項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分級・単位										調査方法等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	節間長	10個体、2反復	測定	mm (小数第1位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第3節間の長さ	
2	葉柄長	10個体、2反復	測定	mm (小数第1位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第3葉の葉柄長	
3	小葉の大きさ	10個体、2反復	測定	mm <sup>2</sup> (小数第1位を四捨五入)										ほふく茎の頂部から3節目の展開葉の中央小葉の大きさ (小葉の長さ×小葉の幅)	
4	小葉の長さ／幅	10個体、2反復	測定	(小数第3位を四捨五入)										ほふく茎の頂部から3節目の展開葉の中央小葉の葉幅に対する長さの比 (小葉の長さ÷小葉の幅)	
5	小葉の形	10個体、2反復	観察		楕円形		円形		ひし形		倒卵形			小葉の形状から判定	
6	小葉の先端の形	10個体、2反復	観察		鋭形		鈍形		円形		凹形			小葉の形状から判定	
7	葉の密度	10個体、2反復	観察		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	開花前の葉の密度を地被率から評価	
8	変葉の多少	10個体、2反復	観察		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	小葉が3枚以外の葉の多少を1番草刈取り時に評点する	
9	血斑の有無	10個体、2反復	観察		極少	より少	少	やや少	中	やや多	多	より多	極多	開花期に葉の血斑の有無と多少を評点する	
10	葉の緑色の濃淡	10個体、2反復	観察		極淡	より淡	淡	やや淡	中	やや濃	濃	より濃	極濃	開花期に葉色を緑度の濃淡により評点する	
11	葉の主な色 (複色の場合)	10個体、2反復	測定											RHSカラーチャートの色票番号。開花期に葉の最も大きな面積を占める色を英国王立園芸協会(The Royal Horticultural Society)RHSカラーチャートにより特定する	
12	葉の二次色 (複色の場合)	10個体、2反復	測定											RHSカラーチャートの色票番号。開花期に葉の最も大きな面積を占める色を英国王立園芸協会(The Royal Horticultural Society)RHSカラーチャートにより特定する	
13	葉の三次色 (複色の場合)	10個体、2反復	測定											RHSカラーチャートの色票番号。開花期に葉の最も大きな面積を占める色を英国王立園芸協会(The Royal Horticultural Society)RHSカラーチャートにより特定する	

作物の種類		しろクローバ		466	1次選択項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分級・単位										調査方法等
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
14	葉柄の太さ	10個体、2反復	測定	mm (小数第2位を四捨五入)										ほふく茎の先端から第3節の葉柄の最大値について1番草刈取り時に評点する
15	開花期	10個体、2反復	観察	年月日										個体当たり3個の頭花が開花に至った株が80%になった日
16	萌芽始め	10個体、2反復	観察	年月日										越冬後の萌芽始め

作物の種類		しろクローバ		466		2次必須項目								
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位										調 査 方 法 等
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	モザイク病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種又は汚染圃場における罹病程度から判定
2	菌核病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種又は汚染圃場における罹病程度から判定
3	植物体の広がり	10個体、2反復	測定	cm <sup>2</sup> (小数第1位を四捨五入)										ランナーによる広がり の 最長径と最短径の積
4	ほふく茎密度	10個体、2反復	観察		極疎	より疎	疎	やや疎	中	やや密	密	より密	極密	単位面積 (100cm <sup>2</sup> ) 当たりのほふく茎の密度 (数×長さ)
5	春の草勢	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	越冬後萌芽1ヵ月の時点での刈取り秤量を想定した草量
6	夏の草勢	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	夏季の刈取り秤量を想定した草量の評点
7	秋の草勢	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	晩秋における再生草量を想定した評点

作物の種類		しろクローバ		466		2次選択項目								
項目番号	項目名	調査数	方法	分級・単位									調査方法等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9
1	汚斑病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	罹病の明らかな時期に評点
2	葉さび病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	罹病の明らかな時期に評点
3	茎さび病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	罹病の明らかな時期に評点
4	そばかす病抵抗性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種または汚染圃場における罹病程度から判定
5	耐病性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	発病が認められた時、罹病株率または被害の程度により判定 (病名を付記)
6	耐虫性	10個体、2反復	観察		極弱	より弱	弱	やや弱	中	やや強	強	より強	極強	人工接種または自然発病による被害の程度により評価(害虫名を付記)
7	越冬性	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	早春における枯死率、再生力、草勢等による総合評価(寒地、寒冷地)
8	越夏性	10個体、2反復	観察		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	初秋における枯死率、再生力、草勢等による総合評価(暖地、温暖地)

作物の種類		しろクローバ		466	3次必須項目									
項目 番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位										調 査 方 法 等
				0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
1	生草収量（春季）	2区	測定	kg/a（小数第1位を四捨五入）										春季（～5月）刈取草について、1区1㎡で2反復以上の平均
2	乾物率（春季）	2区	測定	%（小数第2位を四捨五入）										春季（～5月）刈取草について、生草300gを70℃48時間以上、恒量になるまで乾燥直後に秤量
3	乾物収量（春季）	2区	算出	kg/a（小数第1位を四捨五入）										春季（～5月）刈取草について、（生草収量×乾物率）
4	生草収量（夏季）	2区	測定	kg/a（小数第1位を四捨五入）										夏季（6～8月）刈取草について、春季と同様にして測定
5	乾物率（夏季）	2区	測定	%（小数第2位を四捨五入）										夏季（6～8月）刈取草について、春季と同様にして測定
6	乾物収量（夏季）	2区	算出	kg/a（小数第1位を四捨五入）										夏季（6～8月）刈取草について、春季と同様にして算出
7	生草収量（秋季）	2区	測定	kg/a（小数第1位を四捨五入）										秋季（9月～）刈取草について、春季と同様にして測定
8	乾物率（秋季）	2区	測定	%（小数第2位を四捨五入）										秋季（9月～）刈取草について、春季と同様にして測定
9	乾物収量（秋季）	2区	算出	kg/a（小数第1位を四捨五入）										秋季（9月～）刈取草について、春季と同様にして算出

作物の種類		しろクローバ		466	3次選択項目									
項目番号	項目名	調査数	方法	分 級 ・ 単 位									調 査 方 法 等	
				0	1	2	3	4	5	6	7	8		9
1	乾物消化率	2区、2反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									消化試験又は酵素法による(乾物中%)	
2	粗たん白質	2区、2反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									ケルダール法又は近赤外分析による(乾物中%)	
3	ADF	2区、2反復	測定	% (小数第2位を四捨五入)									酸性デタージェントーアセトン洗浄(乾物中%)	
4	青酸配糖体	100点	測定	% (小数第2位を四捨五入)									1番草刈取り時の含有個体の頻度で示す(単位%)、分析はピクリン酸ナトリウム含有紙法	
5	サポニン	2区、2反復	測定	ppm (小数第4位を四捨五入)									エタノールにより抽出、薄層クロマトグラフィにより分離定量(乾物中ppm)	
6	放牧適性	2区、2反復	観察・測定		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	採食性、放牧利用におけるクローバ率等により総合的に評価(1区30㎡以上)
7	混播適性	2区、2反復	観察・測定		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	イネ科との混播条件における各刈取時の生重のクローバ率による評価(1区6㎡以上)
8	永続性	2区、2反復	測定		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	4カ年計画のクローバ率の変動より判定(1区6㎡以上)
9	1さや種子数	2区、2反復	測定	粒(小数第2位を四捨五入)									開花期後1ヵ月以内の完熟した20頭花について、小花数、純種子数を測定し、1小花当たりの純種子数を算出	
10	採種性	2区、2反復	測定	g/㎡(小数第1位を四捨五入)									1㎡以上から採種し精選した種子重(単位g/㎡)	
11	採食性	2区、2反復	観察・測定		極不良	より不良	不良	やや不良	中	やや良	良	より良	極良	放牧または自由採食試験による採食量により評価